

<p>●196 弱音 と they/there混同</p> <p>1) a quote xxxbuted xxx Aristotle 2) groups xxx talented individuals 3) they had to be something...</p>	<p>1) ストレス音の直前・直後の音の聴き落とし。前置詞の聞落とし。 2) 弱く発音される前置詞 (前の単語の最後の-sとリンキング) 3) theyかthereはよく間違える音のペア 1)attributed / to; 2) of; 3) there</p>
<p>●197 言える英語、言えない英語</p> <p>1) I can't do much help people being humble or curious.</p> <p>と聞こえた</p>	<p>●今回は自分の英語表現にない表現が聞こえなかったように思います</p> <p>A)代名詞のmuchの用法 「やっしまわねばならないことが沢山ありますか」 *Do you have much ____ finish?</p> <p>B)help [SVO+do] 動詞の原形が目的語の後にくると知っている 「彼女は私が人前で話す時にもっと自信を持てるように助けてくれた」 *She helped me ____ confident in public speaking.</p> <p>1) I can't do much to help people be humble or curious. 「人々が謙虚さや好奇心を持てるようにお手伝いをするという点では大したことはできません」</p>
<p>●198 音が化けた</p> <p>1) This way to speak up... 2) because, put yourself down と聞こえた</p>	<p>1)The best way to speak up.... 2) pause, slow yourself down</p> <p>一体なぜ左記のように聞こえたのか？ こりゃ難しいね！ あなたはどうか分析した？</p>
<p>●199</p> <p>1)Some are you that SV. 2)S comes the expensive performance. と聞こえた</p>	<p>1)Some argue that SV. 2)S comes at the expense of performance.</p> <p>答えがわかればそう聞こえるが....と言うやつですね。2)の方は語彙として使えるようにしておきましょう。次は間違いなく聞こえる。</p>
<p>●200 日本語のリピート練習</p> <p>1)心理的安全性、もう少し詳しく言うと言うことなんでしょうか。</p> <p>今、企業の中で流行り言葉になっていると言ってもいいと思うんですが、心理的に安全、すなわち組織の中で、ありのままの自分でいられることが周りから認められていると言う状況が、これがまず一番大事なことなんでしょうね。(21秒)</p> <p>出典：NHKラジオ「マイあさ!」マイBiz 明治大学専門職大学院 野田稔</p>	<p>DクラスMKさんの情報処理： 「この心理的安全性とはどう言うことでしょうか。</p> <p>まず、心理的安全性という言葉は組織の中で流行り言葉になっています。心理的に安全ということは、ありのまま自分であることが、組織の中で認められていると言う状態です」</p> <p>スピーカーが事前に準備した内容を聴く場合は、たとえ母語であっても難しいと言うことを体験しました。聴いているときは、分かったはずなのに記憶に残らない。</p> <p>MKさんの場合、ものの見事に情報処理し、上記の重要情報を出しました。立派と言うより他にありません。最後の「これが一番大事なこと」が抜けましたが、一番大事な点がちゃんとリピートされているので十分です。</p> <p>因みに「冒頭部分と最後が抜ける」という現象。これは日本語のリピートでも起こりますね。</p>
<p>●201 日本語のリピート練習 2</p> <p>1)実験では、痛みを感じる恐怖体験について、マウスに静電気でショックを与えた時の脳内と、その後再び同じ部屋に入れられ、怯えた行動をとっている時の脳内の反応を比べました。</p> <p>出典：NHKラジオ「マイあさ!」マイBiz</p>	<p>●左記の1)を、頭に叩き込みながら音読し、次に文字を見ずに内容を再現してみましょう。その時に自分の日本語を録音しましょう。</p> <p>記憶から落ちる傾向がある箇所： A)冒頭の「痛みを感じる恐怖体験」 B)後半の「怯えた行動をとっている時」 C)最後の「脳内の反応を比べました」</p> <p>英日逐次通訳練習でよく起こる現象と同じことが起こりました。</p> <p>つまり、英語であろうと日本語であろうと、A)冒頭のところで脳が反応しにくく、内容を忘れてしまう。そしてC)最後の結論箇所も、聴いている時は分かったつもりでも、いざoutputとなると、忘れてしまう。</p> <p>中間のB)の箇所は「つなぎ言葉」を入れずに聴いていると、忘れてしまいがちな情報。じっくり行間を読まないと、あるいは理研の科学者たちの意図を考えないと、情報が記憶からスリにくていく。結局、内容が難しい箇所の理解不足で、脳が処理しきれず忘れてしまう。</p>

●中間テストの範囲はこれ以降

<p>●202 becauseの発音</p> <p>1) because / London / another/ beloved</p>	<p>●左記の青文字は、山の形の [ʌ] の発音です。</p> <p>驚いたのは becauseもLondonと同じ仲間と言うことです。もちろん、例の「キムタク」の例の「ツ」もありますが、米語では山の形の方らしいです。びっくり！</p>
<p>●203 マズスーンナズ / マウト と聞こえる</p> <p>1) I woul (d)rea (d)the masoonas they ca meout.</p>	<p>●英語はいつも「トカゲの尻尾切り」 語末の音を次の単語の最初につける</p> <p>*I would read them as soon as they came out. 強弱があり一息でいうので単語が繋がって聞こえるし、繋げて言っている</p>
<p>●204 literary / legendary</p> <p>1) リテラリー、レジェンダリー</p>	<p>●Maryはマリーではなくメアリーとちゃんと発音できるけれど、その他の単語となると、スペルの[a]に惑わかされて[ア]になってします</p> <p>1) literary リトゥレリー、legendary レジュンデリー (発音記号を確認してね) [ar]の組み合わせに注意しましょう。</p> <p>●以下はどうなるでしょうか (a) library (b) secretary (c) military (d) contrary (e) variant 対 valiant さて、[r]と[l]の違いで発音はどうなるでしょう？</p>
<p>●205 [ʌ] (202参照)</p> <p>1) cut / company 2) courage / college 3) color / collar</p>	<p>●1)のcutの発音で使われる山形の発音記号 [ʌ] は曖昧母音と同じほどの口の開き方です。</p> <p>そう言う意味で、2)のcourageの発音記号では [ʌ] ではなく曖昧母音を使い、曖昧母音にストレスマークがついていると言う不思議な発音記号の辞書もあります。</p> <p>●2)のcollegeと3)のcollarはnovelの[a]で、それ以外は全て山形の発音記号 [ʌ]です。</p>
<p>●206 titillate</p> <p>初めて出会う語を耳ではなく、目から仕入れると、以下のような発音になってしまいますね。</p> <p>1) titillate ティティレイト</p> <p>ストレスの場所を考えて、辞書を引かずにまず発音してみましょう</p>	<p>●第一音節にストレスがあるので、第二音節の母音に注意。</p> <p>答えは辞書でどうぞ！</p>